

ファーストラインの特徴

- ◇ファーストラインは、イエシロアリ、ヤマトシロアリに有効です。
- ◇ディフェンダーは容量が大きいいため、モニターの間隔が広がられます。
- ◇ファーストラインは、しろありを効率よく集め、防除できます。

◇建物の周りにコンクリート部分があるときには、コンクリート用ステーションを設置します。

◇すでに建物に被害/蟻道が認められるときには、地上設置型ステーション (AGS) で、駆除します。

ファーストラインシリーズの構成

設置例

ステーションの設置

**コンクリート用
ステーション**

ディフェンダーセット

**地上設置型
ハイトステーション(AGS)**

商品は仕様が変わる場合がございます。

ファーストラインによるシロアリ活動の管理/駆除

ファーストラインは、シロアリの社会性昆虫としての性質を利用して、シロアリを防除します。

シロアリが好む特殊な木材を餌木として使用しています。このため餌木にたどり着いたシロアリは、仲間を呼んできて、ステーションの中にどんどんつれてきます。

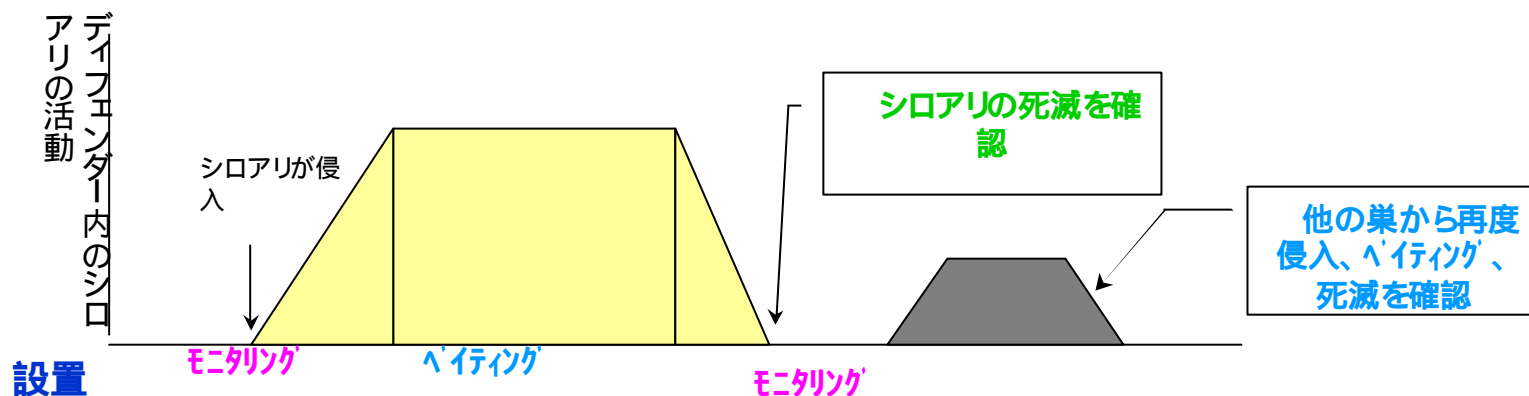
ベイト剤は餌木と同じ木材を基材としていますので、薬剤と一緒に大量に食べたり体につけて、巣に持ち帰ります。そして栄養伝播の過程の中で他のシロアリへと薬が蔓延していきます。

職蟻が薬により、加速度的に死亡固体が増えていきます。そうすると他のシロアリ(王蟻・女王蟻・兵蟻)は、餌がもらえず餓死したり薬の影響で死亡していきます。やわらかい体の部分は、微生物などで速やかに分解されてしまい、もっとも硬い兵蟻の頭部のみ残ります。

このようにして、巣は崩壊します。しかし、周辺にも羽蟻から発達した巣が存在する可能性が高く、他の巣から新たな攻撃を受けることもあります。

ファーストラインによるシロアリ活動の管理/駆除

設置から防除までのイメージ図



ディフェンダー（コンクリート用ステーション）設置後シロアリの活動を観察（モニタリング）します。

ディフェンダー（コンクリート用ステーション）内にシロアリを確認したら、ベイト剤を投入（ベイトング）し、シロアリに食べさせます。

シロアリが薬剤を摂取してから数ヶ月後に、コロニー全体が死滅します。

シロアリの新たな侵入がないか、継続してモニタリングを行います。

他の巣から新たな侵入があった場合には、再度ベイトングします。

ディフェンダー設置から駆除まで

事前調査

建物のシロアリの被害状況・活動状況を確認します。

ディフェンダー設置

建物を囲むように設置します。

モニター活動

ディフェンダー内のシロアリ活動状況を定期的に調査をします。

ベイトイング

シロアリが十分集まったことを確認後、ベイト剤を投入します。

駆除確認

シロアリが駆除された兆候を確認します。

モニター活動の継続

駆除後も新たな侵入から建物を守るためにモニター活動を続けます。

ファーストラインセット内容

商品名	数量	セット内容
ディフェンダー	ステーション： 12個 (各仕切り板2枚、餌木2本、 スパース-2本) 隙間紙： 24枚(各2枚) ベイト剤(4枚 × 3個)：1箱	
コンクリート用 ステーション	ホルダー (餌木入)： 12本 コンクリート用フタ： 12個 ベイト剤(4枚 × 3個)：1箱	
地上設置型 ベイトステーション (AGS)	AGS(ベイト剤入)： 3個	
ベイト剤	ベイト剤(4枚 × 3個)：12枚	

ディフェンダーの構成

ディフェンダーには以下のものが入っています。

ディフェンダー

モニター(餌木)

スプレーサー

仕切り板

隙間紙

ベイト剤



シロアリを駆除するときに、使用する薬剤です。

コンクリート用ステーションの構成

コンクリート用ステーションには以下のものが入っています。

